

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171100011
法人名	社会福祉法人 真栄会
事業所名	グループホーム 菜のはな
所在地	佐賀県神崎市千代田町詫田989-1 (電話) 0952-44-4427

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年12月4日	評価確定日	平成21年2月26日

【情報提供票より】(平成20年10月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
------	--------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	
敷 金	無	理美容代 1,500円(1回) オムツ代 実費 寝具リース代 42円(1日) 日常生活費(洗剤等) 30円(1日)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		
食材料費	1日当たり800円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	77 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中下医院(内科、胃腸科、放射線科)
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>周囲を田園に囲まれ、特別養護老人ホームの他、高齢者の福祉関連事業が併設された事業所である。職員はユニット毎に固定配置されて馴染みの関係が築かれている。職員は入居者の思いを大切に声のトーンや視線を合わせた支援に努めている。医療連携体制も整えられ入居者、家族の安心へも繋がっている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>地域との双方向関係について更なる交流に努める事としており、利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう地域活動や人々との継続的な関わりを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が評価の意義、目的を理解している。評価結果をサービスの質の向上に繋げようとする前向きな姿勢がある。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政担当者や家族代表等の参加により、2ヶ月に1回の運営推進会議が開催され、予定、報告に終らず高齢者を取り巻く社会情勢に至る内容等活発な質疑応答が行われている。この会議を起点として地域との付き合いに発展することも期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等の面会時に日常会話の中から意見、苦情、要望を聞き出そうとする努力がなされている。苦情受付担当者もきちんと明示され、意見箱も設置されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や老人会への加入、公民館活動等を通じ、ともに暮らす地域住民の一員として事業所と地域の人々が支えあうような更なる地域交流を期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

■ (部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、地域密着型サービス事業所としての内容を盛り込み、玄関、リビング、事務所内に掲示されている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のサービスの提供場面において、全ての職員が理念を意識しながら具体的なケアにつなげるまでの理念の共有と浸透にまでには至っていない。	○	理念を掲げるだけでなく、日々の中で管理者と職員が理念を共に意識し、何を大切に利用者に向き合うかを確認したり、話し合うような機会の充実を期待したい。
2. 地域との支えあい				
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着型サービス事業所としての地域との付き合いの大切さは理解しているが、地域の方々が気軽に訪問できる様な交流には至っていない。	○	地域住民の一員として、事業所と地域の人々が支えあうような双方向関係を目指した、地域との更なる交流を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組みその意義、目的を理解すると共にケアを振り返る良い機会ととらえている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者に出席してもらい定期的に開催されている。会議では予定、報告と共に、活発に意見が出され議事録もある。会議の内容を職員の全体会議でも報告し理解を深めてサービス向上に活かしている。		

自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人全体としての市町村との連携に努めており、市町主催の会議等にも積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制				
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回の利用料請求時に日々の暮らしの様子を写真でお知らせしたり面会時、又変化が認められた時はきめ細かく報告している。金銭管理も個人毎にきちんと整理され家族へ報告されている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情箱を設置するとともに、運営推進会議の場でも問いかけ、苦情や意見等を聞き出す努力があり前向きに受け止め対処する方針である。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は固定化し顔馴染みの職員によるケアが行われている。職員の異動や離職の場合も引継ぎの時間を充分にとる等、入居者への影響を極力少なくする様配慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修の他、外部研修も段階に応じて参加する機会がある。毎月の全体会議で他の職員に伝達し、研修報告書も残されている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の老人福祉施設協議会に加入し関係会議等を通じ、他の事業者との交流を図っている。また、他の事業所の見学等も行いサービスの質の向上につなげている。		

自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
26	<input type="checkbox"/> 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	短期入所を経て入居希望のケースが大半を占める為、入居者には日中の雰囲気味わう事を繰り返しながらホームでの生活が安定するのを見極めて安心な利用に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<input type="checkbox"/> 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々変化する感情を大切に、あせらず、急がず、あわてずじっくり時間をかけ、喜び、悲しみを共有しながら穏かな生活が出来る様支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	<input type="checkbox"/> 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の顔の表情や家族からの情報も参考に、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<input type="checkbox"/> チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の視点に立って本人がよりよく暮らすための介護計画を作成している。	○	家族や関係者の気づき、意見、要望がより一層反映できるようアセスメントを含め、関係者との意見交換等の取り組みを期待したい。
37	<input type="checkbox"/> 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合はその都度見直し、継続の場合は6ヶ月毎の見直しが行なわれている。		

自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族の状況に応じて通院介助や外泊時の移送など柔軟に対応している。看護師を配置し日々の健康管理支援と共に医療連携体制の確保もあり、家族、職員の安心へも繋がっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働				
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今は協力医が主治医であるが本人、家族の希望のかかりつけ医の受診も可能である。受診結果は家族にも報告がなされ家族の安心にも繋がっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に重度化した場合における対応や終末期における対応についてホームの方針が家族に説明がなされ、その方針に沿った支援が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を念頭に一人ひとりにあわせた声かけを行い、特に羞恥心に対しても配慮している。個人情報保護に関する取り扱いも徹底している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールはあるが体調や気分、天候等も考慮に入れながら思いや希望を聞き柔軟に対応している。		

自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の特別養護老人ホームの厨房で調理された物が食卓で運ばれ職員による作業で食卓に並ぶ仕組みである。職員は同じ物を一緒に食している。	○	暮らしの場面として、買い物、調理、食事、後片付けなど入居者の個々の力を活かした、食事に関する一連の作業が張り合いや自信、楽しみや喜びとなるような食事のあり方について、事業所の特性を踏まえた更なる工夫と取り組みを期待したい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則的には隔日午後の入浴支援であるが、希望があれば毎日の入浴も支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し・たたみ、雑巾縫い、花の水やり等一人ひとりにあった役割がある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に応じて日常的に散歩や買物に出かけている。毎月1回はドライブ等に出かける機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事の弊害は全職員が理解しており、玄関の施錠はない、玄関にはセンサーを設置するなどし、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人全体でマニュアルに沿った避難訓練を行っている。区長、民生委員の参加を得た訓練も実施されている。		

自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>併設の特別養護老人ホームの管理栄養士による献立で栄養バランスは保たれている。食事、水分摂取量も個人ファイルに毎日記録され職員が情報を共有している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天井は高くゆったりして威圧感がない。随所に休息の場としてのソファがあり、畳には掘りコタツも用意されている。時計、カレンダーも時の見当識に役立っている。浴室も自宅の延長となるような設えである。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が使い慣れた馴染みのもの(鏡台、タンス、椅子、茶道具、ジュウタン)等が持ち込まれ一人ひとりの個性に配慮した居室作りがなされている。</p>		